

協議内容の要点

開催日 平成22年6月25日(金) 16:00~17:15
場所 島本町立第四小学校ランチルーム
出席者 第一小学校 桑原 本田
第二小学校 濱口
第四小学校 頼田 宮里 青木 中村万里
第一中学校 上久木田 畑
第二中学校 山田 村山 田中 榊原 出口

島本町教育研究会外国語部会も出席

案件

(1) 講演「小中学校からの疑問に答える」関西大学外国語学部 竹内 理 教授

小学校英語、中学校英語の目標の確認

(小学校)

- ・小学校は「英語」の習得が目標ではない。異文化の体験を通して、意欲や態度を育成することをねらいとしている。
- ・日本語でもできる外国語活動例の紹介。
- ・ジェスチャーで異文化を体験する例の紹介。

(中学校)

- ・中学校は「言語の習得」がねらい。(コミュニケーション力を養う。)
- ・コミュニケーションの為に、「基礎」、「文字」を身につけ、そして4技能の統合を図る。
- ・新学習指導要領では、教科書は1.5倍から2倍の量になる。

小学校よりの質問に答える

- ・英語ノートは、すべてやる必要はない。小中連携のために、学習した内容については、必ず小学校から中学校に伝えること。
- ・発音について、ALTや電子黒板に頼ればいい。ただ、アクセントは間違わずに。特に、語頭の発音をしっかりとすること。
- ・「ゲームが主体」では、決してない。日本語でできる体験型の英語活動もある。5・6年生はプロジェクト型の学習が効果的。
- ・授業中の指導は日本語でよい。ただ、指示文は英語が適当。
- ・書くことの指導を追求するには、時間が短すぎる。
- ・授業の終わり、5分くらいはクールダウンすることが必要。(振り返り等)

中学校よりの質問に答える

- ・小学校英語の導入で中学校の英語が大きく変化する。英語が初習では無くなるので、動機付けが大切。
- ・入試も変化していくだろう。複合的スキルを試す出題。(例:「リスニング後、その内容について自分の考えを書く」問題。)

- ・小中の連携のために、何を学習したか、お互いの指導を否定しない、中学校教員は小学校の授業を見に行くべき。
- ・円滑な接続の手立てとして、具体的に共有できる活動は3ヒントクイズ。

まとめと質疑応答

- ・新教科書のはじめ数レッスンは、小中で共有できるというお話しだが、小から中へのスムーズな接続という意味と捉えてよいか。
各社とも、英語ノートを踏まえて、円滑な接続を意識して作っている。
- ・小学校全校で歌える歌の例があれば教えていただきたい。
「全校で」となると難しい。段階的・学年別ではよいものもある。市販のもので十分である。
- ・入試で、統合的な技能が試されるとのことだが、英語が苦手な生徒にはとても対応できないだろう。特にスローラーナーへの指導の手立ては何かあるか。
統合的な技能は最終目標であり、入試においては、基礎的な知識や技能を試す出題もあるはず。具体的な手立てとしては、国語科との連携が考えられる。自分の考えをしっかりと持たせることが必要。小学校の時からしっかりと国語の力を身につけさせること。（新学習指導要領のキーワードは「思考力・判断力・表現力」。）
- ・支援学級在籍生徒への指導で、アドバイスがほしい。
個々に違うので、一律には難しいが、工夫する視点として、「身近なこと」を題材にすることが考えられる。また、得意とする技能に焦点化した取組を行えばするとよいのでは。（例えば、読むことに特に関心が高い生徒には、読むことを中心とした学習を与えるなど）

(2) 次回について

(町教育研究会外国語部会 部会長 第一中学校 畑教諭より)

- ・次回、島本町内の外国語教育にかかわる研究会は7月30日(金)。町小中一貫教科プロジェクトと町教育研究会外国語部会との合同研究会。マイクロティーチングを通して、授業観・教材の共有を図りたい。